

松前町の国民健康保険の現状

町では、国民健康保険（国保）の課題を町民の皆さんと情報を共有するため、毎回異なるテーマで国保の現状等を掲載しています。前回（広報1月号）は平成30年度からの制度の改正点を掲載しました。今回は、町の国保財政と医療費の状況について説明します。

国保財政は危機的状況

平成27年度の国保財政は、約85万円の赤字決算となり、前年度繰越金を差し引いた単年度収支は、約1,770万円の赤字となります。（グラフ1）今後、国保の都道府県、単位化を迎えるにあたり、現状では保険税率の見直しをしなければならない状況が見込まれ、安定した財政運営を図るためにも現在の赤字を改善していくことが急務となっています。

国保財政悪化の主な要因

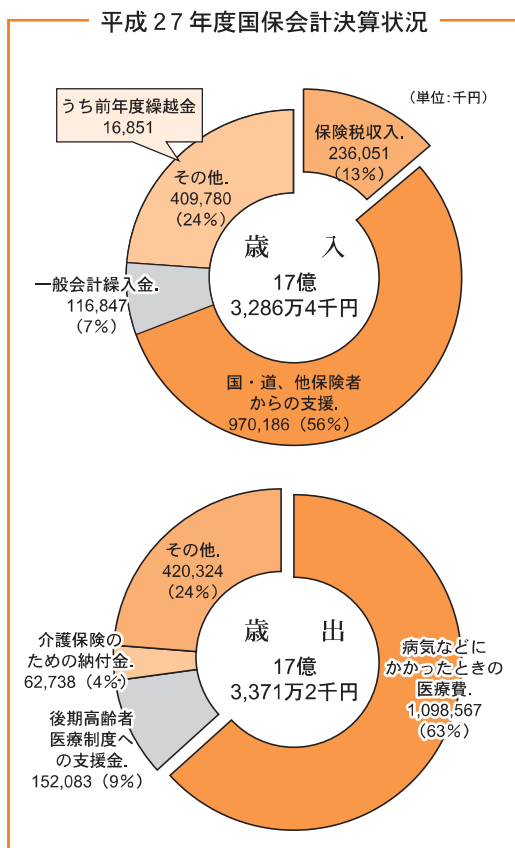
- ① 高齢化や医療技術の高度化による **1人当たり医療費の増加**（グラフ2）
- ② 高齢化や被保険者数の減少による **国保税の減収**（グラフ2、3）



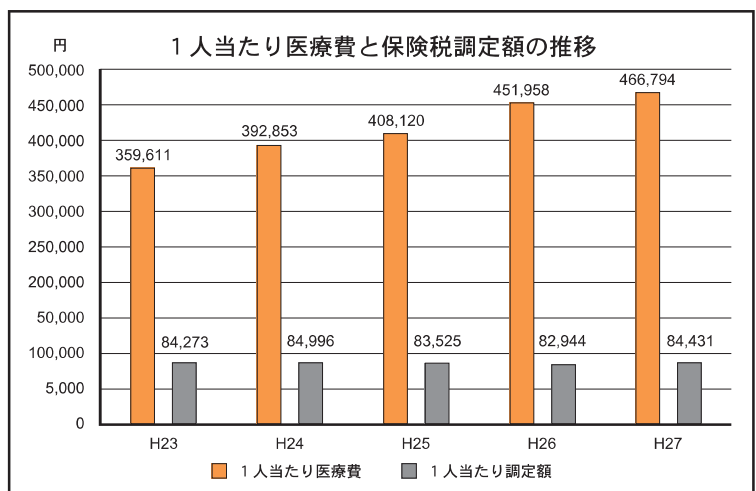
急激な高齢化と被保険者の減少

平成27年度の年間平均の被保険者数は、2,783人となり年々減少しています。被保険者数の減少は国保税の減収に繋がります。一方、65～74歳の前期高齢者の割合は年々増加し全体の約43.9%を占め（グラフ3）、こうした急激な高齢化に伴い、1人当たりの医療費が増加しています。（グラフ2）

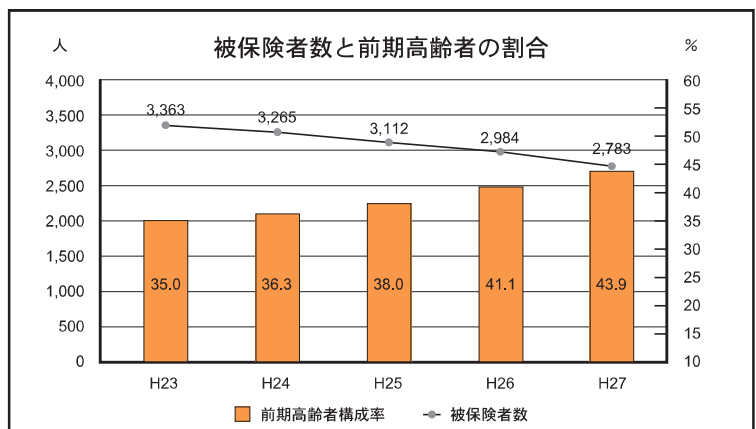
【グラフ1】



【グラフ2】



【グラフ3】



医療費が急増

国保財政の悪化の大きな要因の一つに、医療費の急激な上昇が挙げられます。

平成27度に町が支払った医療費は、約10億9,857万円、前年度と比較して4.2%の減少となりましたが、1人当たりの医療費では46万6,794円となり、渡島管内では1番高く、3.2%の伸び率となっています。（表1）

近年、医療技術の進歩に伴い、医療費が高額となる治療も増えています。また、国保の被保険者では65～74歳の高齢者の割合が全体の約44%と高く、年齢が上がることで病院に通う回数が増加するため、一人当たりの医療費も高額になっていきます。

今後も医療技術の進歩、高齢化に伴い、医療費はより一層増加することが予測されます。

表1 渡島管内市町との比較(平成27年度)

保険者名	1人当たり医療費(円)	前年度との伸び率(%)
松前町	466,794	3.2
福島町	454,537	5.4
八雲町	419,033	5.1
知内町	414,278	12.2
七飯町	410,859	6.4
木古内町	408,509	3.7
函館市	403,065	3.5
長万部町	396,013	3.9
北斗市	390,584	5.7
森町	384,705	5.7
鹿部町	321,931	6.2
管内平均	406,392	5.5

生活習慣病が上位

平成27年度の町の国保医療費では、生活習慣病が上位を占めています。（表2）生活習慣病は、食事や睡眠、運動、飲酒、喫煙などの生活習慣が原因となって高血糖や高血圧、脂質異常の状態になり、気付かず放置してしまうと心筋梗塞や脳梗塞、腎不全などを引き起こす怖い病気です。

また、糖尿病の合併症となる糖尿病性腎症（人工透析）になると、日々の生活に支障を来すと共に、多額の医療費がかかるようになります。

表2 松前町国保医療費に占める上位5位の疾病(平成27年度)

順位	疾病名
1	糖尿病
2	関節疾患
3	高血圧症
4	慢性腎不全（透析あり）
5	大腸がん

生活習慣病と特定健康診査

生活習慣病を予防するためには、初期段階で専門家の指導のもと、日々の生活習慣を改善し、適切な治療を受けることが重要です。

国保では、生活習慣病の予防対策として40歳以上の方を対象に「特定健康診査」や健診受診者を対象に食事や運動による生活習慣の改善を促すプログラム「特定保健指導」を実施しています。（対象者には町から案内通知を郵送）

年に1回は健診を受け、身体の状態を確認しましょう！

次回は国民健康保険税について掲載します。



お問い合わせ 役場福祉課 ☎ 42-2275